



まなびい 掲示板

▶くずまきカレンダー広告募集

町では、平成30年度の「くずまきカレンダー」に広告を掲載していただく事業所などを募集しています。掲載を希望される事業所などは、教育委員会へお申し込みください。なお、定数になり次第、募集を締め切らせていただきます。

- 掲載料 5,000円 (縦5.0cm×横 7.5cm)
10,000円 (縦5.0cm×横15.0cm)
 - 発行部数 3,100部 (4色刷り、町内全戸配布)
 - 応募締切 平成30年1月22日(月)
- 町教育委員会 ☎66-2111 内線276

▶第1回 町文化協会芸能まつり

町文化協会主催による第1回芸能まつりを次のとおり開催します。お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

- 日時 1月14日(日)
開場12:30 開演13:00 ~ 15:30
- 場所 葛巻小体育館
- 入場料 前売券200円 ※当日券300円
高校生以下無料

- 出演団体 (9団体、50音順)
- | | |
|-------------|------------|
| ①江刈民謡愛好会 | ②おどる江刈会 |
| ③葛巻コールアロー | ④葛巻みんよう伝承会 |
| ⑤下冬部七ツ物保存会 | ⑥花みづきの会 |
| ⑦舞スマイルダンス教室 | ⑧馬淵川源流太鼓の会 |
| ⑨元木神楽保存会 | |

※チケットのお求めは、町公民館または上記出演団体まで。
当日は、上履きをご持参ください。

町文化協会事務局 長岡功 ☎66-2226

第32回 町女性のつどい

町女性団体連絡会(近藤とし子会長)主催の第32回町女性のつどいは12月2日、会員や関係者ら約70人が参加しグリーンテージで開催されました。

岩泉町の(有)早野商店取締役営業担当の早野由紀子さんが「台風10号に見舞われて、今」と題して講演。台風の被害に遭ったときから復興に取り組む現在までの状況について体験談を語る内容に、参加者たちは真剣に耳を傾けていました。

また、J A女性部が8月に実施した町内施設めぐりについての活動報告を行い、参加した会員らと情報を共有しました。

つどいの最後には、参加者全員で「女性ならではの視点と創意をもってまちづくりに参画します」と宣言し、閉会しました。



△台風10号での被害と復興についての講演に真剣に耳を傾ける参加者の皆さん(円内は講師の早野由紀子さん)▷女性のつどい宣言の様子



葛巻神楽保存会による勇壮な舞⑥と小田念仏剣舞保存会の息の合った舞⑦

第4回町郷土芸能発表会は12月10日、葛巻小体育館で開催されました。
車門念仏剣舞保存会、茶屋場えんぶり保存会、小屋瀬さんさ踊り保存会、葛巻神楽保存会、小田念仏剣舞保存会、江刈民謡愛好会、ナニヤドヤラ葛巻愛好会のほか客演の沼宮内七ツ踊り(岩手町)の計8団体が華やかな舞や民謡を披露し、約150人の観衆を魅了しました。
町郷土芸能団体連絡協議会会長の遠藤勝広さん(63歳・四日市)は「回数を重ねることで出演者も充実した発表会になったと思います。特に今年は、岩手町の七ツ踊りの皆さんに出演していただき、町の郷土芸能団体も大きな力をもらったことと思います」と振り返り「観覧には、町外からもお越しいただき、盛大な拍手での応援に感謝します。来年も開催できるように頑張りたいと思います」と感謝と今後の抱負を語り、充実した表情を見せていました。

郷土の伝統芸能を熱演 第4回町郷土芸能発表会

「60歳のつどい」 人生3度目の成人式で決意新たに



△参加者全員での集合写真▷軽体操で体と心をリラックスさせる参加者たち

60歳のつどい(同実行委員会主催・神谷義次実行委員長)は11月26日、グリーンテージで37名が参加し行われました。
参加者たちは、スティックを使って体をほぐしたり「後出しジャンケンゲーム」などの軽体操やレクリエーションを楽しみました。
また、青少年時代のアルバムを持ち寄り作成したスライドショーが上映されると、身乗り出しながら懐かしい写真映像に見入り、当時の思い出話に花を咲かせました。「60歳まだまだ宣言」として「これからもまだまだやれる」ことをお互いに確認しあい、今回のつどいを契機に、これからも自分のために歩んでいくことを全員で誓いました。
旧知の仲の更なる親交や新たな出会いで大いに盛り上がりました。



『老後をリッチにする家じまい』 長谷川 裕雅 作

「空き屋」「重税」「相続争い」の元凶を処分して豊かなセカンドライフを手に入れる秘策!
トラブルの実例を紹介しながら、なぜ一戸建ては不利なのか、わかりやすく解説。一戸建ての住宅処分イコール「家じまい」して、老後に備える生き方のヒントになる1冊です。



『銀河鉄道の父』 門井 慶喜 作

宮沢賢治の生家は富裕な質屋。長男の彼は家を継ぐ立場だが、学問の道へ。後には、教師や技師として地元へ貢献しながら、創作に情熱を注ぎ続けた。地元名士の賢治の父・政次郎は賢治をいかに育て上げたのか、宮沢賢治の生涯を父・政次郎の視点から描きます。



『バスでいよいよ』 重松 彌佐 作

学校から帰ってきたら、しんごくんの家と古いお屋敷の真ん中にバスが立っていました。しんごくんはいよいよ、いよいよ、いよいよバスでいよいよおしたりひっぽたり…。でも、バスはいはびくともしません。どうしたらいいんだらう。しんごくんがバスでいよいよをみあげていると…。

公民館 図書室から 本の紹介

- 開館時間：午前8時30分～午後7時
- 休館日：年末年始